

特 257

375.



Handwritten vertical text in cursive script, possibly a signature or a note.



いりは。いほく。ちし。あま。
わお。よたれそ。しね。あま。
うあ。の。おくら。ま。けぶ。こ。ま。
あま。ま。あま。あま。あま。

昭和年月日 昭和年月日

一二三四五六七八九十百子

一億二千貳拾廿

子 残葉書 切子 連達 電報

振替 為替 郵便 航空便

御主人様 以奥様 先生 御坊君

御父母君 御妻子様 御息

御嬢様 お坊ちやよ 有親 舅姑

水待女 少中

府 府下 郡 郡市 市外 道

町 村 字 番 地 號

東京 大阪 京都 横濱 神戶

名古屋

麴町 神田 日本橋 京橋 芝

麻布 赤坂 四谷 牛込 小石川

本郷 下谷 浅草 本所 深川

足利 目黒 信原 大森 蒲田
寺田谷 渋谷 淀橋 中野 杉並
豊島 荒瀬川 荒川 王子 板橋
足立 向島 埼玉 葛飾 江戸川

秩窪 調布 玉川

沖奈川 子葉崎 群馬 栃木
茨城 福島 宮城 岩手 青森
秋田 山形 静岡 愛知 岐阜 山梨

长野 新潟 富山 石川 福井
滋贺 兵库 奈良 和歌山 三重
四国 广岛 山口 高松 香取 德岛
香川 爱媛 高知 福冈 佐贺

长崎 熊本 鹿儿岛 宫崎
大分 冲绳 台湾 朝鲜 满洲
车天 北京 大连 上海 南京
青 御 奉 天 松 辽 柳 林

粗忌 水見拜 月河 御禮
水祝 御意 眞寸志 薄謝
御靈前 御玉 帛料 水布 扱
水車代 水師 別 金 圓 也

むろりん 水師 別 金 圓 也
うけ 水師 別 金 圓 也
物 水師 別 金 圓 也
水無月 水師 別 金 圓 也

お怒。その略。五つをいふまゝに上げぬ。
お別なごころ。一書しむるをあげ来
らばおぬ。一冊にらむにせ。その後
はうら絶えてはせむ書か—あけたる

ころ。やうく時儀を調つておむり
し。おぬ。おぬ。おぬ。おぬ。おぬ。
おぬ。おぬ。おぬ。おぬ。おぬ。
おぬ。おぬ。おぬ。おぬ。おぬ。
おぬ。おぬ。おぬ。おぬ。おぬ。

くすくすにわらう。御一御様よふふ
あえあえと〜おぼろ〜おぼろ〜
ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜
ま。波に〜方ね〜

うらあひに〜。老人〜
〜
〜
〜
〜

かきつゝ
かきつゝ
かきつゝ
かきつゝ
かきつゝ
かきつゝ
かきつゝ
かきつゝ
かきつゝ
かきつゝ

かきつゝ
かきつゝ
かきつゝ
かきつゝ
かきつゝ
かきつゝ
かきつゝ
かきつゝ
かきつゝ
かきつゝ

お侍(お侍)の御返。お侍(お侍)の御返。

お侍(お侍)の御返。お侍(お侍)の御返。

お侍(お侍)の御返。お侍(お侍)の御返。

お侍(お侍)の御返。お侍(お侍)の御返。

お侍(お侍)の御返。お侍(お侍)の御返。

お侍(お侍)の御返。お侍(お侍)の御返。

お侍(お侍)の御返。お侍(お侍)の御返。

お侍(お侍)の御返。お侍(お侍)の御返。

海——心はあはれ。あはれ——あ
見かた。結核はあはれあはれ。あ
喜びし。あはれあはれあはれ——あ
あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ
あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ
あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ
あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ

水肥立ちしおまう〜。殊よはむぢわ
う〜男め〜の〜。むら〜の〜
んうに〜たびよ〜せ〜
ん〜赤らぢま〜た〜。は〜は〜

い〜と〜。は〜は〜。水病〜は
〜と〜。〜の〜
お着蓮。あ〜の〜の甲斐と
〜。〜。おぢぢ。お〜

ハ好むは... 由。此計報...
... 夢が...
... 推し上げ。此慈福...
... 日おろ... ぼ入の...

... 由。此計報...
... 夢が...
... 推し上げ。此慈福...
... 日おろ... ぼ入の...
... 列色... 御堂...
... 極...
... 今々お入... 御母...

孝の徳は、人をして善くするに
 大なる力あり。孝の徳は、人
 を善くするに大なる力あり。孝
 の徳は、人をして善くするに
 大なる力あり。孝の徳は、人
 を善くするに大なる力あり。

孝の徳は、人をして善くするに
 大なる力あり。孝の徳は、人
 を善くするに大なる力あり。

六〇

孝の徳は、人をして善くするに
 大なる力あり。孝の徳は、人
 を善くするに大なる力あり。

一〇一

1871
 1872
 1873
 1874
 1875
 1876
 1877
 1878
 1879
 1880
 1881
 1882
 1883
 1884
 1885
 1886
 1887
 1888
 1889
 1890
 1891
 1892
 1893
 1894
 1895
 1896
 1897
 1898
 1899
 1900

1871
 1872
 1873
 1874
 1875
 1876
 1877
 1878
 1879
 1880
 1881
 1882
 1883
 1884
 1885
 1886
 1887
 1888
 1889
 1890
 1891
 1892
 1893
 1894
 1895
 1896
 1897
 1898
 1899
 1900

1871
 1872
 1873
 1874
 1875
 1876
 1877
 1878
 1879
 1880
 1881
 1882
 1883
 1884
 1885
 1886
 1887
 1888
 1889
 1890
 1891
 1892
 1893
 1894
 1895
 1896
 1897
 1898
 1899
 1900

1871
 1872
 1873
 1874
 1875
 1876
 1877
 1878
 1879
 1880
 1881
 1882
 1883
 1884
 1885
 1886
 1887
 1888
 1889
 1890
 1891
 1892
 1893
 1894
 1895
 1896
 1897
 1898
 1899
 1900

1871
 1872
 1873
 1874
 1875
 1876
 1877
 1878
 1879
 1880
 1881
 1882
 1883
 1884
 1885
 1886
 1887
 1888
 1889
 1890
 1891
 1892
 1893
 1894
 1895
 1896
 1897
 1898
 1899
 1900

1871
 1872
 1873
 1874
 1875
 1876
 1877
 1878
 1879
 1880
 1881
 1882
 1883
 1884
 1885
 1886
 1887
 1888
 1889
 1890
 1891
 1892
 1893
 1894
 1895
 1896
 1897
 1898
 1899
 1900

1871
 1872
 1873
 1874
 1875
 1876
 1877
 1878
 1879
 1880
 1881
 1882
 1883
 1884
 1885
 1886
 1887
 1888
 1889
 1890
 1891
 1892
 1893
 1894
 1895
 1896
 1897
 1898
 1899
 1900

1871
 1872
 1873
 1874
 1875
 1876
 1877
 1878
 1879
 1880
 1881
 1882
 1883
 1884
 1885
 1886
 1887
 1888
 1889
 1890
 1891
 1892
 1893
 1894
 1895
 1896
 1897
 1898
 1899
 1900

1871

1871

Handwritten text in a cursive script, likely a list or series of entries, contained within a rectangular border. The text is written from top to bottom and includes various characters and symbols.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or series of entries, contained within a rectangular border. The text is written from top to bottom and includes various characters and symbols.

昭和十一年の暮れに
 おくやま今日こえて浅き夢
 見しをひもせず

ついでに
 御前

ふみのてほどき 釋文

<p>一、いろは にほへと ちりぬるを わかよ たれそ つねならむ うゐのおくやまけふこえて あさきゆめみしをひもせずん</p>	<p>四、昭和年月日 昭和年月日 一二三四五六七八九十百千 萬億 壹 貳 參 拾 廿 卅 手紙 葉書 切手 速達 電報</p>	<p>七、かしこ かしこ あらくかしこ 早々 様 様 様 方 さま 内 殿 どの 御前に みまへに 御もとに 親展</p>
<p>二、以呂盤 尔本通登 知利叔流越 いろは にほへと ちりぬるを 王可与 多達所 徒年 那羅無 わかよ たれそ つねならむ 宇爲能 於久也万 个婦 許登氏 うゐのおくやまけふこえて 阿佐支 由免美志 基也毛世 あさき ゆめみし をひもせず</p>	<p>五、振替 爲替 郵便 受取 航空便 御主人様 御奥様 先生 師の君 御父母君 御愛子さまがた 御令息 御嬢様 お坊ちやま 兩親 舅姑</p>	<p>八、御侍女 御中 府 府下 縣 郡 市 市外 區 町 村 字 番地 號 東京 大阪 京都 横濱 神戸</p>
<p>三、色はにほへど散りぬるをわ が世たれそ常ならむ有爲の おくやま今日こえて浅き夢 見しをひもせず</p>	<p>六、兄弟 姉妹 祖父母 老人 隱居 伯父 叔母 從弟妹 甥 姪 嫁 仲 長男 次女 娘 子供 親戚 義兄 私 自分 女中 下男 召使</p>	<p>九、名古屋 麹町 神田 日本橋 京橋 芝 麻布 赤坂 四谷 牛込 小石川 本郷 下谷 淺草 本所 深川</p>

<p>十、品川 日黒 荏原 大森 蒲田 世田谷 澁谷 淀橋 中野 杉並 豊島 瀧野川 荒川 王子 板橋 足立 向島 城東 葛飾 江戸川</p>	<p>十四、粗品 御見舞 月謝 御禮 御祝 御香焚 寸志 薄謝 御靈前 御玉申料 御布施 御車代 御饞別 金 四 也</p>	<p>十八、らせられず候や。御一同様にはいよく御元氣にて和子さまがたにも御すこやかにいらせられますか御伺ひ申上ます。次にわたくし方おかげさまにて</p>
<p>十一、荻窪 調布 玉川 神奈川 千葉 埼玉 群馬 栃木 茨城 福島 宮城 岩手 青森 秋田 山形 静岡 愛知 岐阜 山梨</p>	<p>十五、むつき<small>(月一)</small> きさらぎ<small>(月二)</small> やよひ<small>(月三)</small> うづき<small>(月四)</small> さつき<small>(月五)</small> 水無月<small>(月六)</small> ふみづき<small>(月七)</small> 葉づき<small>(月八)</small> ながつき<small>(月九)</small> 神無月<small>(月十)</small> 霜つき<small>(月十一)</small> しはす<small>(月十二)</small></p>	<p>十九、うち揃ひつゝがなく。老人はじめことなく過してをります故。どうぞ御安心たまはりたる存じます憚ながら心安う思召し下されたく</p>
<p>十二、長野 新潟 富山 石川 福井 滋賀 兵庫 奈良 和歌山 三重 岡山 広島 山口 島根 鳥取 徳島 香川 愛媛 高知 福岡 佐賀</p>	<p>十六、拜啓。前略。取いそぎまを上げ候。早速ながら。一筆しめしあげ参らせます。一寸申あげます。その後はうち絶えて御無音申しあげ居候と</p>	<p>二十、願上候。就ては。さて。現。先日はふと御邪魔申上げ。参上いたしみ心入の御品たまはり。深きみこゝろ添へにあづかり。あつき御もてなし</p>
<p>十三、長崎 熊本 鹿児島 宮崎 大分 沖縄 臺灣 朝鮮 滿洲 奉天 北京 大連 上海 南京 壽 御年玉 そしな 松の葉</p>	<p>十七、ころ。やう／＼時候も調つてまゐりました。其のうちは如何おはしまし候やとたえず御案じ申し上げながら。皆々さまには何の御障りも入</p>	<p>廿一、いたゞき。ありがたくあつう御禮申上げ候。まことに／＼にうれしうぞんじました。山々御禮きこえあげます。時節柄ひとしほ御身御大切に。</p>

<p>廿二、不順のそりからくれ／＼も御自愛遊ばされたく。御風邪など召しませぬやうに。切に念じ上げまゐらせます。相變らずの亂筆ながら</p>	<p>廿六、へし。只今拜受。くりかへし拜見申上。結構なるたまものみな／＼喜びいり。早速にも拜味まをし上げ。御多用の御中を。いつもながらの御心</p>	<p>三十、御肥立ちもおよろしく。殊には玉のやうなる男みこのよし。おうち中がどんなに御喜びに満たせたまふ御事かと。いづれ赤ちやま拜見ながら御産後くれ／＼</p>
<p>廿三、御はんじくでございますやう。さぞおよみにくうやおはしまさむと恐入り申し候。未ながら御主人様へよろしう。皆々さまへよしなに</p>	<p>廿七、入れ。いとも／＼ありがたく。誠に申譯なう存じます。一筆御断り迄。何とぞあしからず思召しくださいませ。随分御機嫌よう。またのおたよりに</p>	<p>卅一、も御大切に。承り候らへば。御病氣の御事とも存じまゐらせず。ひたすらの御護看。あつきみこゝろづくしの甲斐もなう。遂に御他界。御逝去。おかく</p>
<p>廿四、お傳へいたゞき度。こなた一同よりも。くれ／＼宜しくつたへあげ候様にとまをし出で候。花子よりも御禮山々申出でました。先はとりあへず御禮</p>	<p>廿八、春子さまには御良縁といのはせられ。近々御結婚あそばされ候よし。御こし入。玉椿の八千代をこめて祝しあげ。結納とりかはせ。支度。吉日に。御あ</p>	<p>卅二、れ遊ばされました由。御計報に。只々驚き入り。夢かとはかり。御なげきの程深く推し上げ。御愁傷いかばかりと。同封のかはせ。ほんのこゝ</p>
<p>廿五、まで。まづは御無沙汰の御わびかた／＼折かへし御返事待上げまゐらせます。右御挨拶までに。筆おしらせ申しあげ候。拜復。御懇なるをか</p>	<p>廿九、ら／＼しき品には御座候らへども。御祝ひの心ばかりに。いく久しく拜受。この上とも宜しく御指導たまはりますやう。御やすらかに御産のひもとかせられ。</p>	<p>卅三、ろばかりの御手向として。御香料として。別包の御香一箱何とぞ御靈前へ。御かなしみの御あと皆々様にはひとしほ御身御大切に。今はお一人の御母さみ</p>

卅四、さまへくれぐれも御孝養を。御菩提おん大せつに。御冥福をいのりあげ候。其の後はさぞかし御淋しう。御忌明の御供養として。御懇なる御品拜受。

卅五、(右) つしみて
としの
はじめを
ことほぎ
まつる、

(左) 一月一日
新年おめでたう
ぞんじ
あげます
元旦

卅六、(右) 暑中御見舞
まをし上げ
ます
八月一日

(左) 早速ながら私方この程都合に
より左記へ轉居いたしましたから
自然おとほりがりの節は御立
ちよりいたゞきたく一寸御通知迄申
上げます
赤坂區青山北町四丁目
十八番地
長野雪子

卅七、(右) 東京市日本橋區
茅場町八番地
宮崎みち子様
神奈川縣鎌倉小町
三〇二
山邊千歌子

(左) 高知縣香美郡
野市字山下
武島しよぶ様
千葉縣長考町
三門海岸
御澤とし子

卅八、その後は御捕ひあそばし
いよ／＼御機嫌うるはしう
入らせられ候御事何よりと
賀し上まゐらせ候。さて
昨日は私事不在の折から
はる／＼御尋ねいたゞ候よし
まことに／＼申譯なうかつ
御久々にて御めもじも
申上ぐべかりしをと殘
念に存じ上候。何かわたくしに
御用おはしましての御事
に候らひしや一筆御わびなが

卅九、(右) 右らきこえあげ候
かしこ
三月十六日 桂子
吉野さくら子様
御もとに

(左) 御文にていとも／＼恐入
ました。實は昨日用事
のためふとお宅さまのお
そばを通りましたゆゑ
おなつかしさに一寸お尋ね
申上ましたので格別の事
で
四月、御伺ひ申上げたのでは御座
いません。いづれまた／＼
御たづねまをしあげた
く存じてをります
三月十八日 櫻子
かつら子様
御前に

四十一、(右) 東京市麻布區
市兵衛町三丁目八十五番地
三宅節子様
御もとに

(左) 茨城縣筑波町
十一月四日 藤田まさ子
四十二、昭和十四年のきさらぎに
折しも梅まさかりなる
かまくらの山莊にて
小琴かく

比田井小琴先生書

かなの手ほごさ

上製 金七拾圓
並製 金七拾圓
各送料 九錢
◆本書は小學校高等科女子用書方新字本の書者比田
井小琴先生が、假名を學ぶ者の手ほごさとして書
かれたものであつて、平假名に初まり、變體假名
の書き方を變通りにも示し、更に和歌及び文章に
入り、最後に色紙短冊の書き方を示してあり、初
學者の好手本であります。

比田井小琴先生書

かなの手ほごさ初編

上製 金七拾圓
並製 金七拾圓
送料 金六錢
◆平假名、變體假名のいろはを、一字々々の書き方
から更に進んで讀めて書く書き方を示し、又いろ
は歌として變通りにも書きたるものを示す、初學
者の必ず踏むべき階梯の書として美む。

比田井小琴先生書

四季のおどづれ

上製 金參圓八拾錢
並製 金參圓八拾錢
送料 金十五錢
◆年始のふみ、歌留多とりにもさそふ、梅見にもさそふ
等、四季折々の手紙に、更にその返事を添ふ。手
紙に上達すると共に、又手紙の範とするに足る帖
の、學書者の好伴侶となすべき好書である。

比田井小琴先生書

三十六歌選

裝訂細書形美本 定價 金壹圓
送料 六錢
八丸、貫之、家持等三十六歌仙の歌を集めしもの、假名を學ばんとする者の必習書として推奨す。

比田井小琴先生書

御製帖

裝訂和本紙 定價 上製 金一圓貳拾錢
定價 並製 金八拾錢
送料 金十錢
◆本書は明治天皇御製五十首を一頁一頁とし散らし
方に種々の工風を振らされたる小琴先生の傑作な
り。

393
186

比田井天來先生編

昭代法帖

◇ 内容

- ◇ 本帖の特色
- 一、和漢古今の著名なる碑帖墨蹟中の文字を實用の點に作替へて古法帖の現代化を圖つた
 - 二、同一文字はその法帖中最良のものを採り之を修正して筆意・結體の妙を明瞭にした
 - 三、巻末に著名碑帖の一部を列挙して、書體の變遷を知り併せて觀賞眼を養成するを得しめた
 - 四、上製は鳥の子紙を用ひ、高尚優美なる装幀を施し以てその内容の美に遜色ならしめた
 - 五、別冊参考書を編纂し熟字の講義書者小傳、碑帖の來源、筆順、書寫體の解説をなした

- 第一帖 第一集 歐陽率意書 皇市府君碑
第二集 王羲之草書 皇市府君碑
第三集 弘法大師行書 請來自錄
- 第二帖 第四集 孫過庭草書 書譜
第五集 傅察原行成書 和漢朗詠集
- 第三帖 第七集 智永真草千字文 寶墨軒本
第八集 顏真卿楷書 多寶塔碑
- 第四帖 第十集 王羲之草書 十七帖
第十一集 薛稷行成書 文獻帖
第十二集 褚遂良楷書 雁塔聖教序
- 第五帖 第十三集 顏真卿行書 孟法師碑
第十四集 顏真卿行書 孟法師碑
第十五集 顏真卿行書 孟法師碑

◇ 定價

- 上製各帖 (参考書付家庭用) 金三四
送料 金十四錢
- 全 各集一冊 金壹圓
送料 金六錢
- 重製(教科書用) 各集一冊 金六十五錢
送料 金六錢
- 參考書 (每三集) 金三十錢
送料 金三錢

比田井小琴先生編

昭代かな帖

◇ 昭代かな帖第一集は藤原行成の書と傳へられてゐる和漢朗詠集より、第二集はやはり行成の古今和歌集より最良の字を採り、いろはの基本文字から連綿體に至るまで、假名の一通りが極めて習ひやすく編纂されてあります。

◇ 内容

- 第一集 藤原行成書 關戸古今集
第二集 藤原行成書 和漢朗詠集

◇ 定價

- 上製(家庭用)各冊 金七十錢
送料 金六錢
- 重製(教科書用)各冊 金四十錢
送料 金六錢

精選墨

- 古 香 (四丁形) 純金箔巻美濃桐箱入 一丁 金參圓六拾錢
惜寸陰 (二丁形) 一丁 金六十錢
- 郵送料(十個マア)市内金六錢内地金十錢其他金四十二錢

假名書に最適な筆

- 小琴先生用筆 假名昭代清賞 (徑二分半) 一本 金三十錢
小琴先生用筆 たまご (徑二分) 一本 金三十五錢

昭和十四年四月廿日印刷 定價 金壹圓貳拾錢
昭和十四年四月廿五日發行

東京市澁谷區代々木山谷町三八八
東京市澁谷區代々木山谷町三八八

發行所 東京市澁谷區代々木山谷町三八八
發行所 東京市澁谷區代々木山谷町三八八

發行所 東京市澁谷區代々木山谷町三八八
發行所 東京市澁谷區代々木山谷町三八八

終

